

[福岡会場版]

# 九州国際大学法学部における ジェネリック・スキルの評価と育成

---

九州国際大学法学部

教授 山本 啓一

近著:「学力に課題を抱える大学における就業力の育成と課題—九州国際大学法学部の事例から」  
『日本労働研究雑誌』第629号、平成24年12月。

(独立行政法人 労働政策研究・研修機構のサイトよりダウンロード可能)

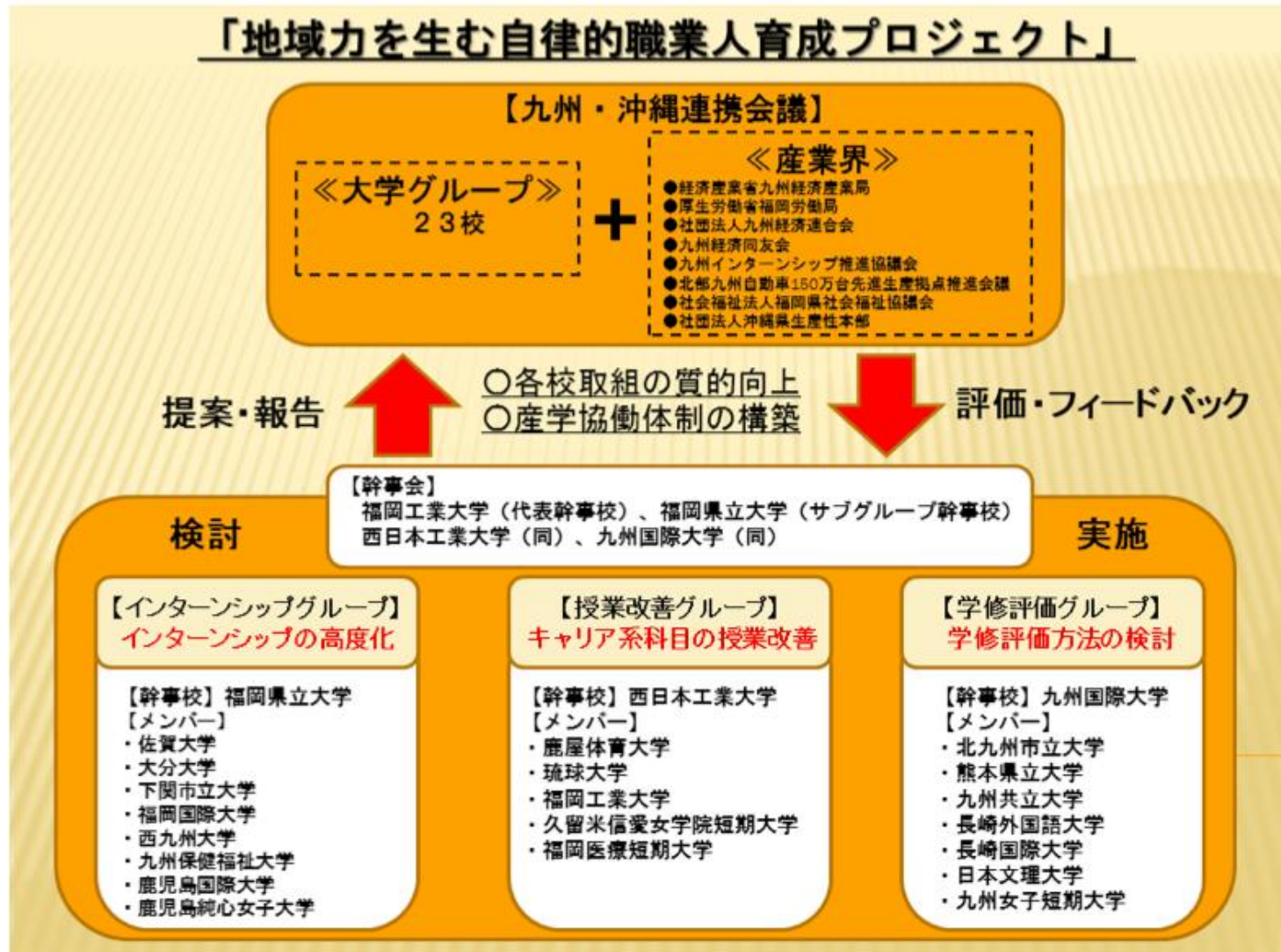
# 概要

1. ジェネリック・スキルと人材ニーズ
  - ・産業界GP人材ニーズ調査
  - ・目標人材とジェネリック・スキルの関係
2. 九州国際大学法学部のPROGテスト分析
  - ・3年間を通じたリテラシースコアの変化
  - ・他の評価方法との関連性
3. ジェネリック・スキルを育成する方法
  - 事例①(リテラシー編)入門演習
  - 事例②(リテラシー編)文章表現科目
  - 事例③(コンピテンシー編)社会実習
  - 事例④(FD編)オフキャンパス研修
  - 事例⑤(専門教育編)基礎セミナー(予定)
4. 九州・沖縄地区産業界GPの試み

# 1. ジェネリック・スキルと人材 ニーズ

- 
- 「ジェネリック・スキル」は、知識基盤社会において必要なキー・コンピテンシーであると同時に、現在の日本の産業界が大学生に求める能力でもある。

# 九州・沖縄地区産業界ニーズGP



# 九州・沖縄地域の人材ニーズについて

## リアセックによる人材ニーズ調査(221社)より

- 【新卒採用のポイント】従業員数が多い企業ほど、「筆記などの適性検査」「一般教養・常識」「基礎学力」を重視している。
- 【新卒採用の重視点】50～100名規模の会社を中心に「小論文・作文」を課す企業が九州では多い(増えている)。
- 【大学生に求める能力】コンピテンシーのうち、特に「対人基礎力」が求められている。従業員数が多い企業ほど(＋公務員)、「コミュニケーション能力」「自主性」「チームワーク」が重視される。
- 【大学生に求める能力】「学び続ける姿勢」と「成長」はどの業種でも重視される(＝「現時点の能力」だけではなく「成長可能性」を求めている)。

→九州・沖縄地区の産業界の大半は、「コミュニケーション能力の育成」「チームワーク・リーダーシップの育成」「論理的思考力・問題解決力の育成」「倫理観や自己管理能力の育成」を求めている。

→特定スキルよりも圧倒的にジェネリック・スキル(コンピテンシー&リテラシー)が求められている。

※評価方法…客観テスト／文章課題／グループディスカッション／面接

# 九国大法学部の目標人材＝「警察官」とは何か？

警察官採用試験は、なぜ、長年「①教養試験」「②小論文」「③面接」「④体力試験」で構成されているのか？

- ① 警察組織の「幅の広い仕事(例:交番→捜査→防犯→総務→市町村へ出向→etc.)」に対応できるためには、「幅広い知識」を獲得し続けるための「学習能力(フレキシビリティ・訓練可能性)」が不可欠…基礎知識やリテラシーを客観的に評価
  - ② 警察官にとって「書類作成能力」は必須(対課題基礎力)
  - ③ 警察官としての「適性」…「やる気」「倫理観」「自己管理力」「チームワーク」(対人基礎力／対自己基礎力)
  - ④ 身体能力は警察官にとって必須の条件
- +α 新たな課題(検挙から防犯へ)…協働力、課題解決力等

→問われているのは今も昔も「ジェネリック・スキル」

## ジェネリック・スキル～学士力と就業力をつなぐ概念

### 中教審学士力答申

①知識・理解	多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解
②汎用的技能	コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報リテラシー・論理的思考力・問題解決力
③態度・志向性	自己管理能力・チームワーク・リーダーシップ・倫理観・市民としての社会的責任・生涯学習力
④統合的な学習経験と創造的思考力	自らが立てた新たな課題を解決する能力

- 「入り口の質保証」論…ジェネリック・スキルは、かつては(進学率20%台)、受験勉強を通じて、あるいは大学教育・大学生活を通じて「副産物」として育成された→学歴(偏差値)によってジェネリック・スキルがある程度予測可能。
- 「出口の質保証」論…現在の(特にユニバーサル)大学では、ジェネリック・スキルを持たない学生が入学し、そのまま卒業する可能性がある→正課教育を通じてジェネリック・スキルを「**意識的に**」育成することが必要。

## 2. 九州国際大学法学部の PROGテスト分析

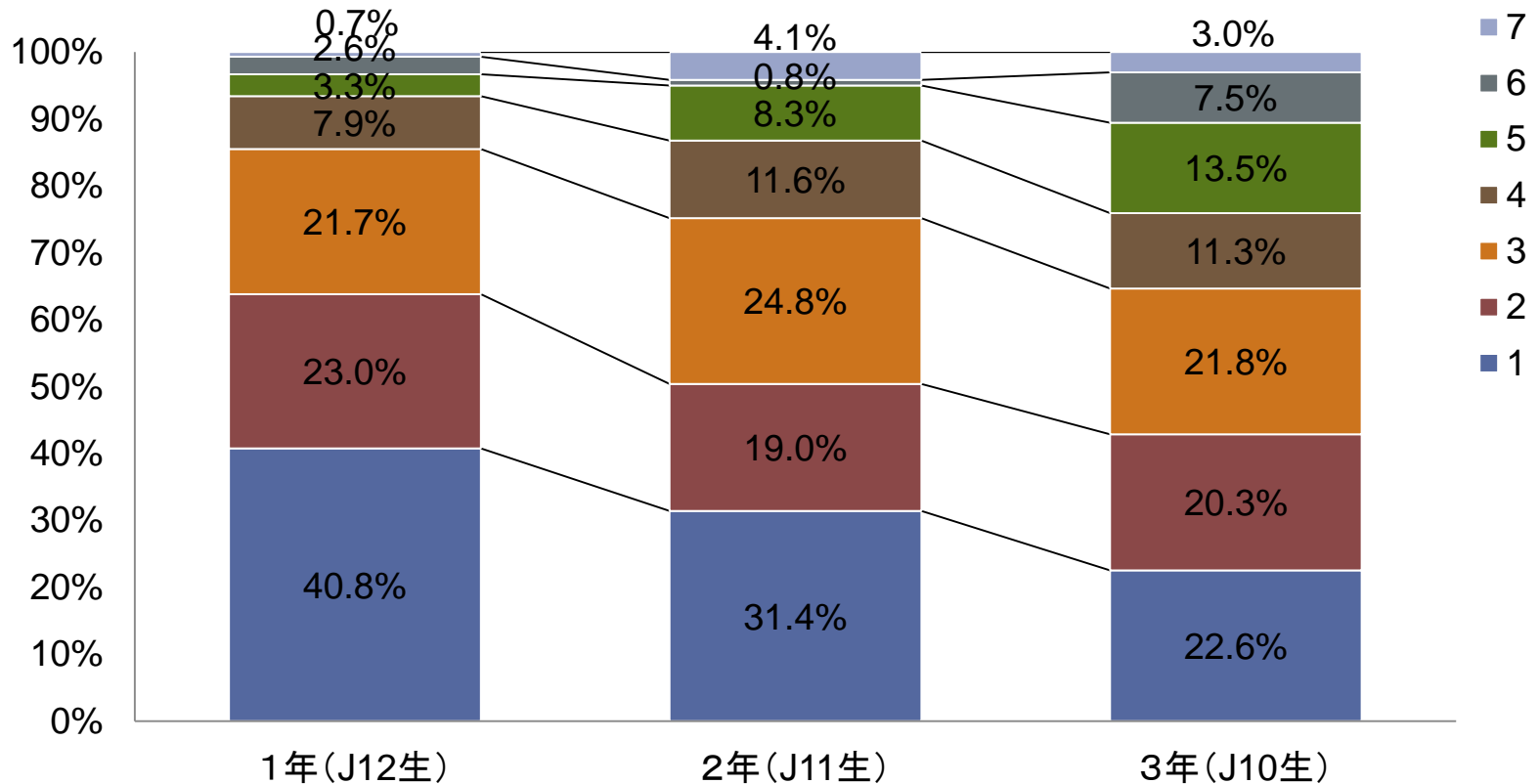
---

- リテラシー(課題解決力)は大学3年間で変動する。このスキルは教育に先立つ本人の資質(≡「地頭」)というよりも、教育の成果として位置づけられるべきである。
- PROGテストを大学・学部で行われている様々な評価方法と関連づけ、評価制度を改善することが重要である。



# 2012年 リテラシーテスト結果

※学年名称は2012年当時

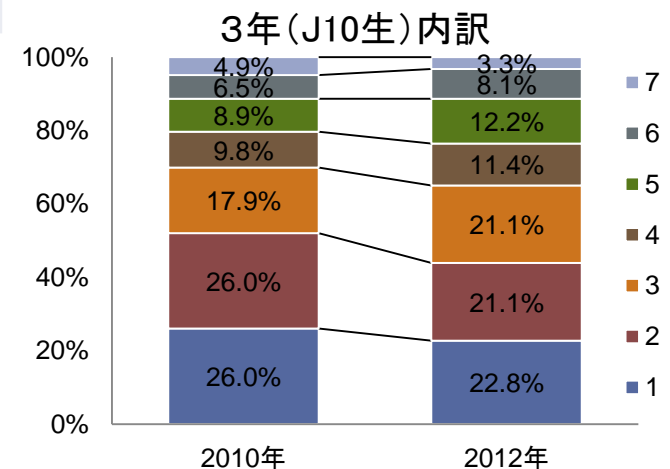
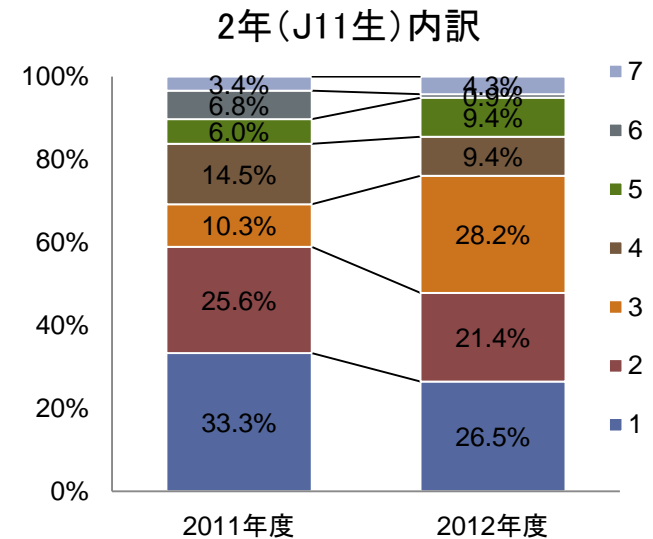


- 3年前にPROGテスト試行バージョンを受験した際に、コンピテンシーは平均を超えていたため、翌年からリテラシーテストのみを受験。
- 2012年度は421名(1年153名、2年134名、133名)が受験。
- 2013年度は、3学部全体で受験。

# リテラシー・スコアの推移①

	人数 (2012)	継続 受験 者数	継続受験者のうち		
			2010 平均	2011 平均	2012 平均
1年生 (J12生)	174	152	—	—	2.20
2年生 (J11生)	183	117	—	2.68	2.73
3年生 (J10生)	172	123	2.86	<u>3.15</u>	<u>3.11</u>

- 1年次の平均値が年々下がっている。
- 2年生…ランク3が増加。それ以外がほぼ減少＝下位は上昇したが、上位も下降。
- 3年生…最上位層以外は全体的に向上。ただし、2年から3年で平均値が下降(誤差の範囲内?)。

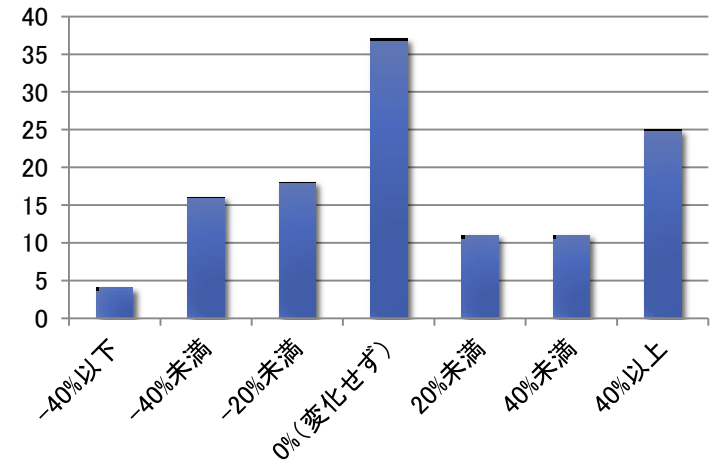


# リテラシー・スコアの推移②

	人数 (2012)	継続 受験者 数	継続受験者のうち		
			上昇	変化せ ず	下降
1年生 (J12生)	174	152	—	—	—
2年生 (J11生)	183	117	42	38	37
3年生 (J10生)	172	123	47	38	38

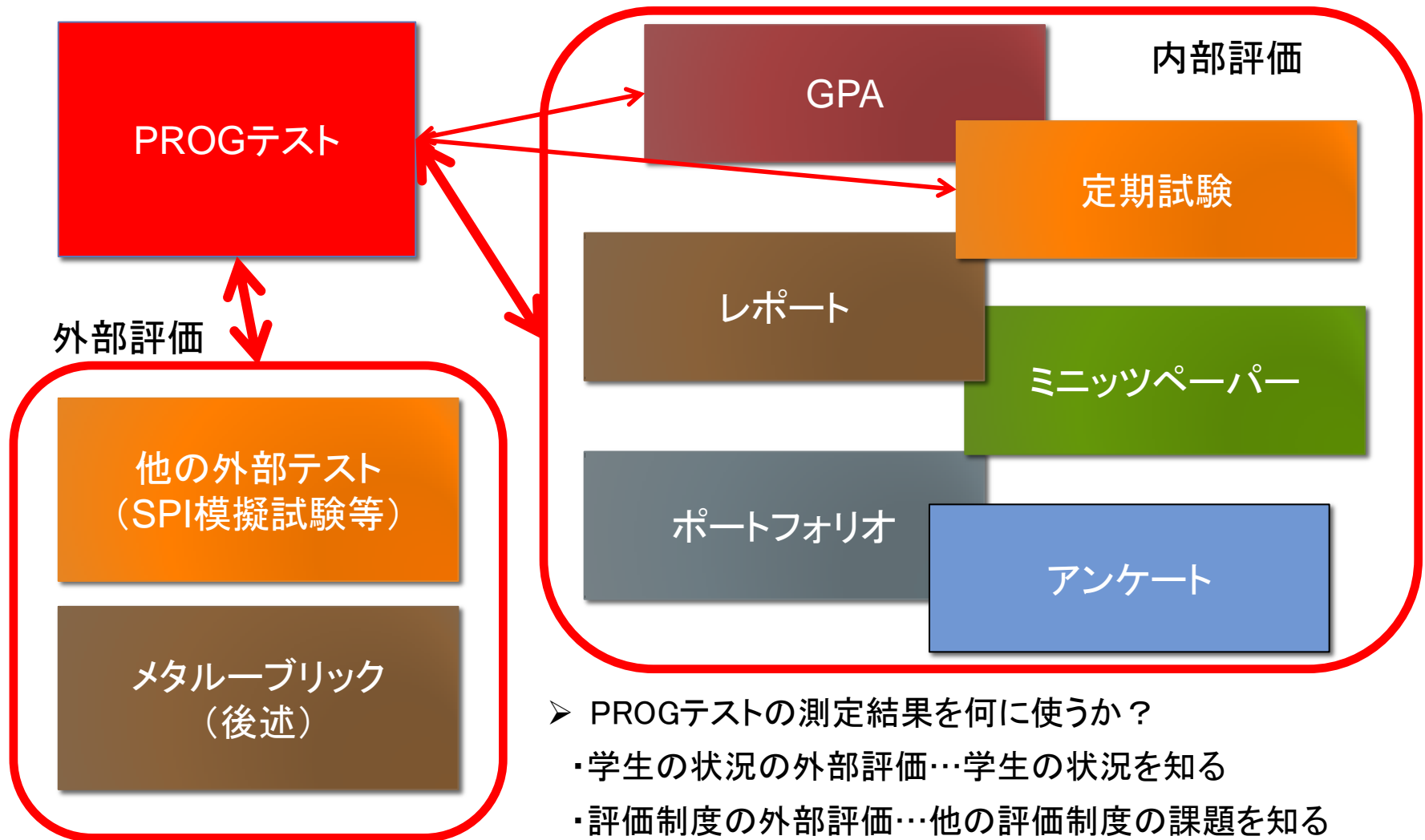
$$\text{年平均成長率} = (2012\text{年} / 2010\text{年})^{1 / (2012 - 2010)} - 1$$

3年生(J10生)の3年間の成長率



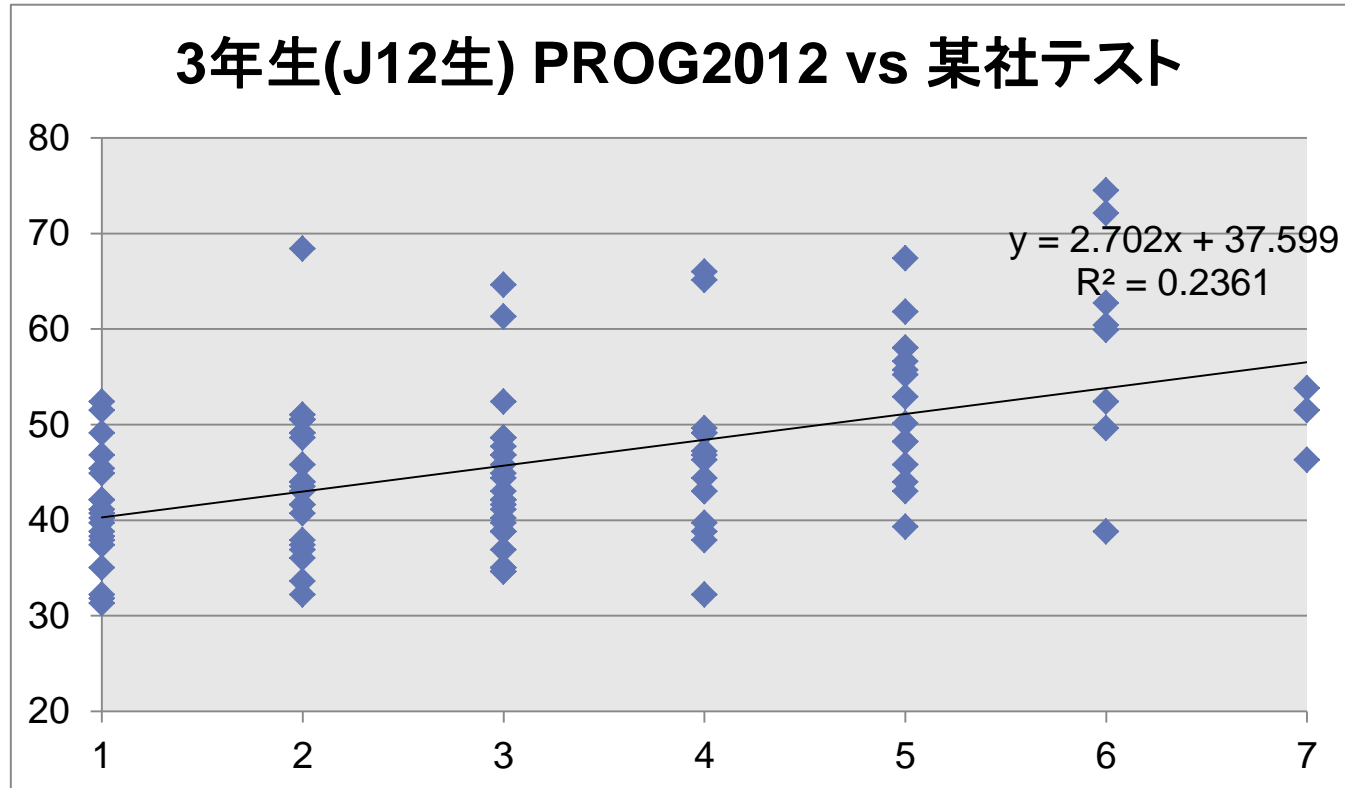
- リテラシースコアの「上昇層」「不変層」「下降層」の3層が存在する。
- リテラシー成長率の差は？ 「情報収集力」は多くの学生が伸びているが、特に「課題発見力」が二極化している。
- 原因は？ 1年から3年の間に複数回同じゼミを選んでいる学生(一貫型)と、毎年ゼミを変更している学生(非一貫型)を比較すると、一貫型の方が成長率が高い。ただし6%程度の影響しかない。
- PROGテスト受験の態度・姿勢のバラつきが影響している可能性も考えられる。今年度は、受験時の条件を一定にして(一教室一斉受験)実施する予定。

# PROGテストと他の評価方法との関連性



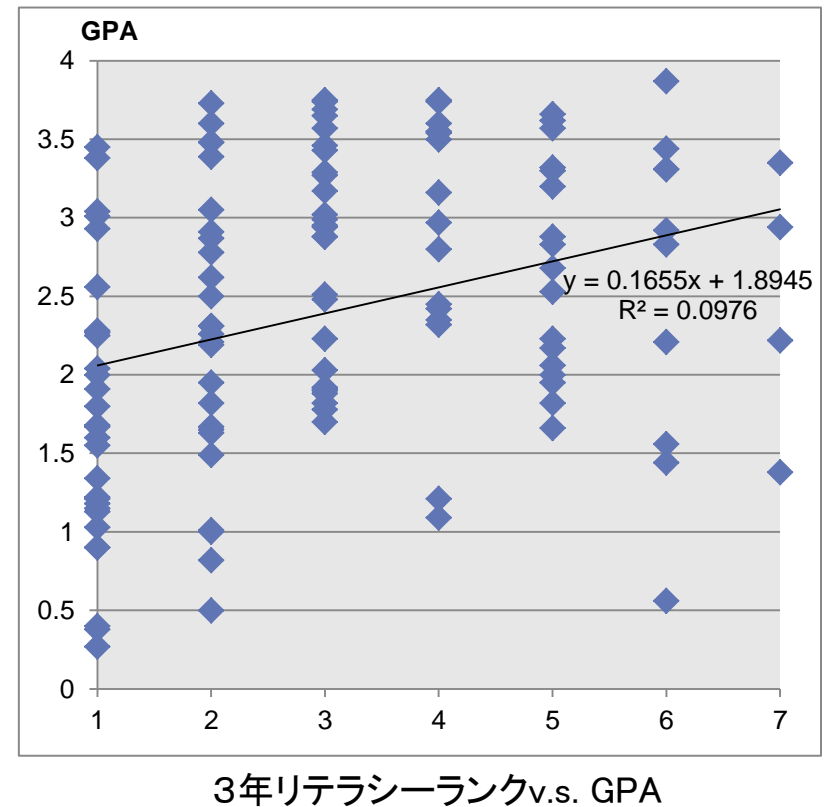
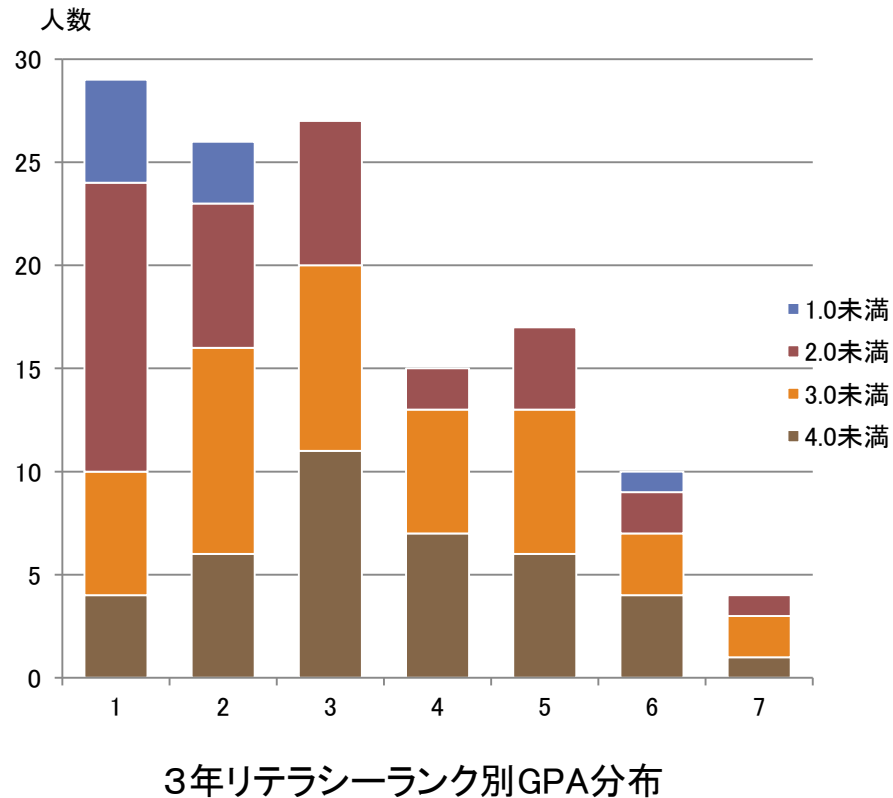
- PROGテストの測定結果を何に使うか？
  - ・学生の状況の外部評価…学生の状況を知る
  - ・評価制度の外部評価…他の評価制度の課題を知る
  - ・FDの指標…授業改善のポイントを知る

# 外部評価同士の関連性について



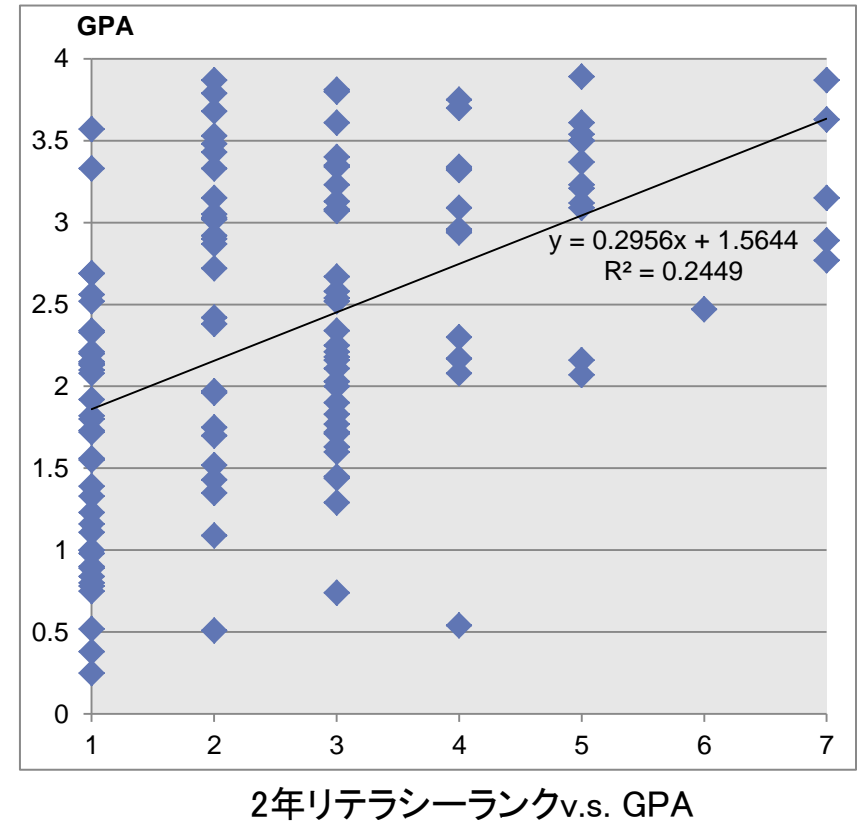
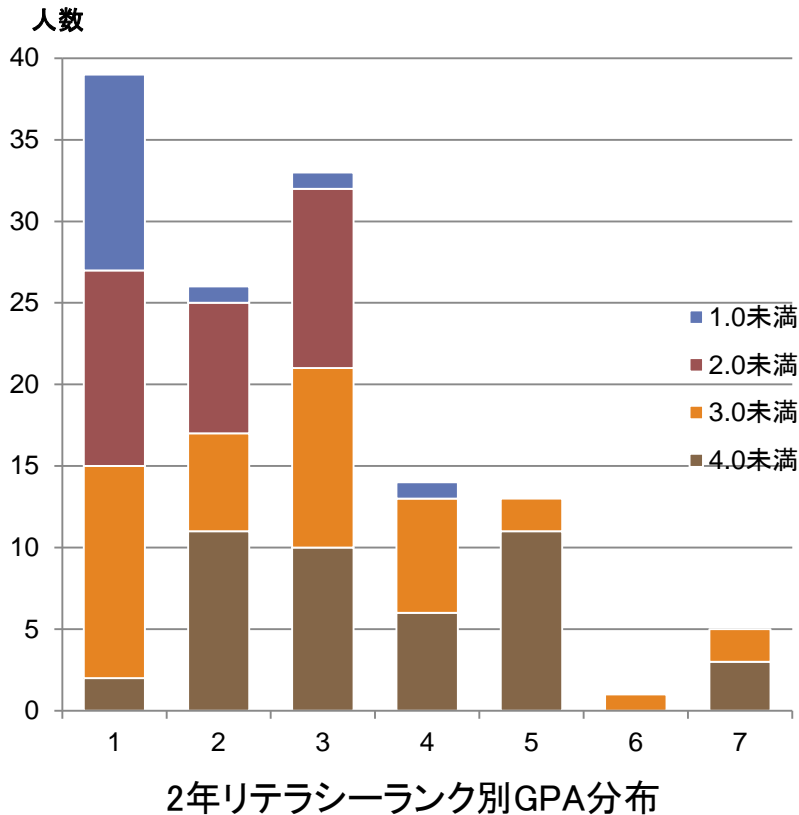
- 某社テストの内容…一般常識:社会科学・人文科学・自然科学・時事 基礎学力:英語運用・日本語理解・判断推理 …「就職試験問題として出題される一般常識や能力・性格の適性検査問題などに本番と同様の形式で…」
- PROGテストは「就業力評価」として、現実的に活用できる可能性がある。→本学でも再び「コンピテンシーテスト」を受験する予定。

# 3年生(J10生) GPA v.s. PROGリテ



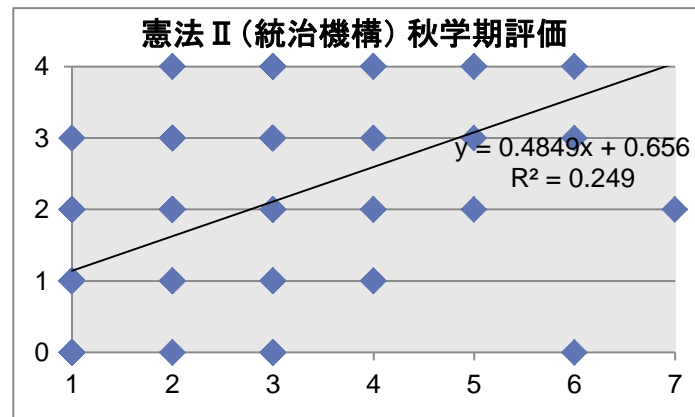
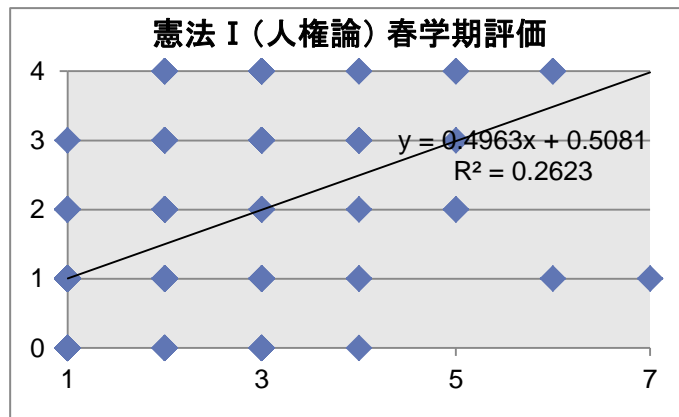
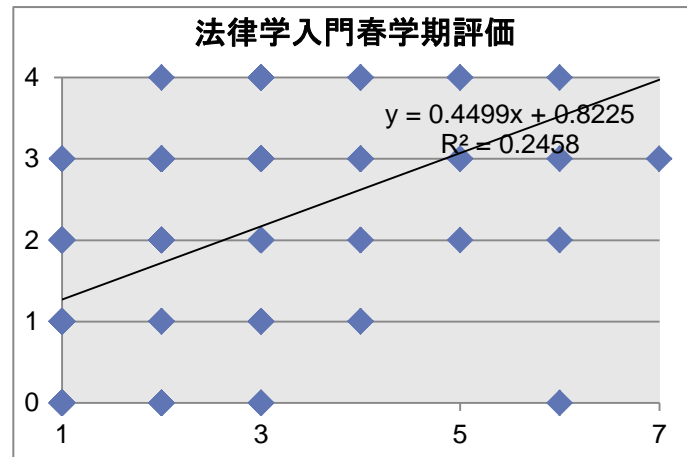
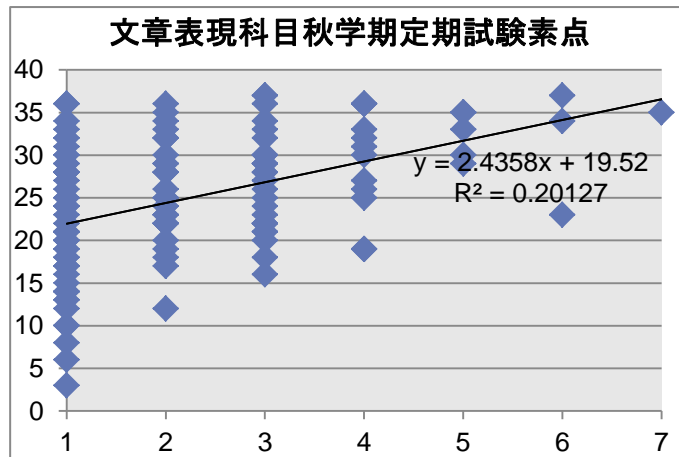
- PROGリテラシーランクとGPAがほとんど相関していない…新卒採用にあたって企業が学生の「大学の成績」をほとんど考慮しない理由。

# 2年生(J12生) GPA v.s. PROGリテ



- リテラシースコアの高い学生は、ほぼGPAも高い。他方、GPAが高くてリテスコアが高いとはいえない。GPAが低い学生はリテスコアも低い。
- GPAとPROGテストの相関は高まりつつあるが、リテラシー育成は未だ不十分である。

# 1年生(J12生)対象科目v.s. PROGリテ



- PROGリテラシースコアと関連性のある科目が年々増加…初年次科目担当教員を中心に、PROGの「リテラシー」の概念に対する理解が広がっている。

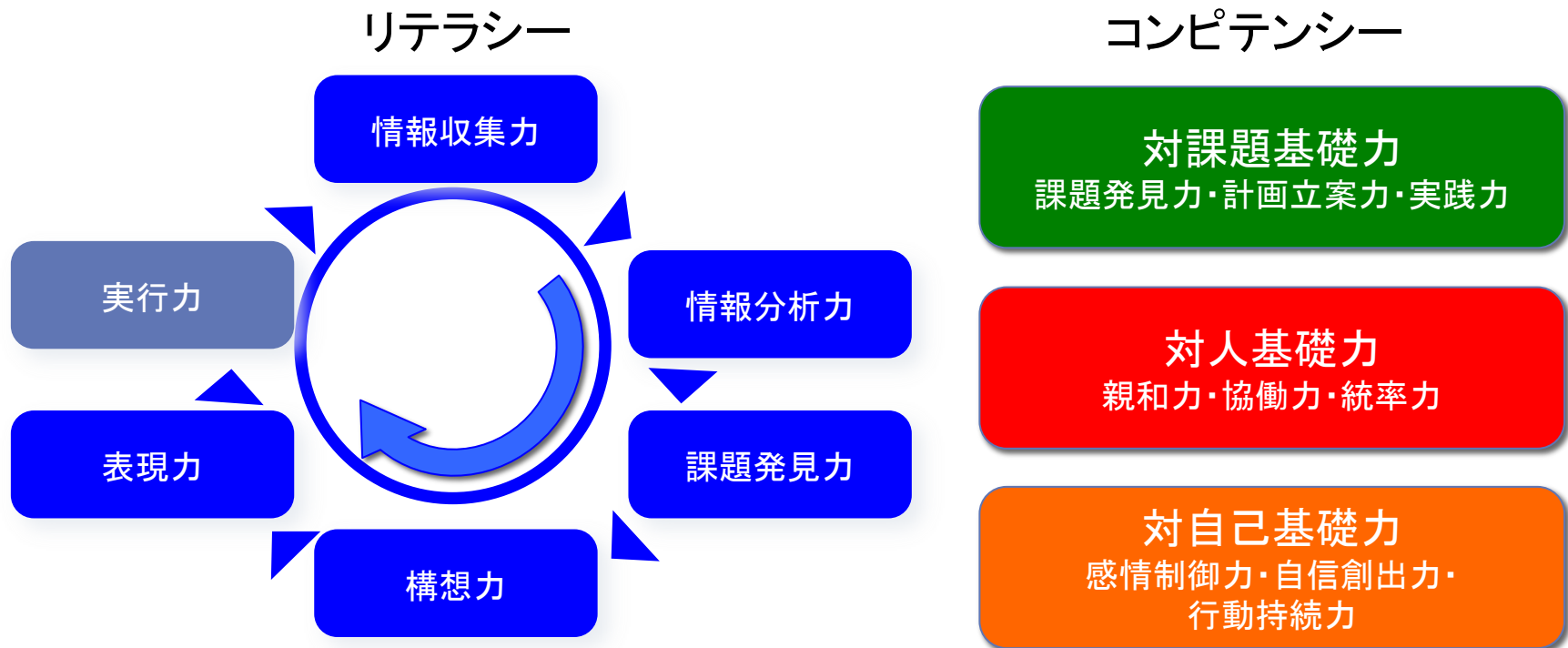


# 3. ジェネリック・スキルを育成する方法

---

- PROGテストを単なる形成的アセスメントツールとして活用するだけでなく、PROGテストの評価項目を教育改善の指標として活用すべきである。
- 九国大法学部では、初年次科目を中心に、PROGテストのリテラシーとコンピテンシーの観点を達成目標や評価基準として、いくつかの科目に組み込みつつある。

# PROGテストの構成概念の「妥当性」



- PROGテストの構成概念は、OECDのキー・コンピテンシーやPISAリテラシーと関連→他の評価制度の見直しの基準／FDや授業改善として活用可能

# DeSeCoのキーコンピテンシー(1997-2003)

- OECD DeSeCo (Definition and Selection of Competencies: Theoretical and Conceptual Foundations)
  - ①コンピテンスの再定義…「ある特定の文脈における複雑な要求に対し、認知的・非認知的側面を含む心理—社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力」
  - ②「キー・コンピテンシー」の選択…単なる知識や技能の習得を越え、共に生きるための学力を身に付けて、人生の成功と、良好な社会を形成するための鍵となる能力概念
- 1) 道具を相互作用的に用いる→「**対課題基礎力**」
  - ①言語リテラシー ②情報リテラシー ③技術リテラシー
  - ※PISAやCLAはこの一部 ※PROGリテラシー分野も同様
- 2) 異質な人々の集団で相互に関わりあう →「**対人基礎力**」
  - ①他人と良い関係を作る能力 ②協力・チームで働く能力
  - ③争いを処理し、解決する能力
- 3) 自律的に行動する→「**対自己基礎力**」
  - ①大きな展望の中で活動する能力 ②人生計画や個人プロジェクトを設計し実行する能力 ③自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力

# PISAリテラシーとPROGリテラシー

(1) PISAリテラシー…「多様な状況において問題を設定し、解決し、解釈する際に、教科領域の知識や技能を効果的に活用して、ものごとを分析、推論、コミュニケーションする生徒の力」

(2) PROGリテラシー

- 問題解決力…大卒者として社会が求める問題解決能力(知識を活用し問題を解決する能力)

※この力を、「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」という問題解決のプロセスに不可欠な4つの要素で測定・評価。

- 言語・非言語処理能力…「情報分析力」の一部

◆言語処理能力 日本語の運用に関する基礎的な能力。

◆非言語処理能力 数的処理や推論、図の読み取りなど、情報を読み解くために必要な(言語以外の)基礎的な能力。

# リテラシー・サイクル…課題解決のプロセス



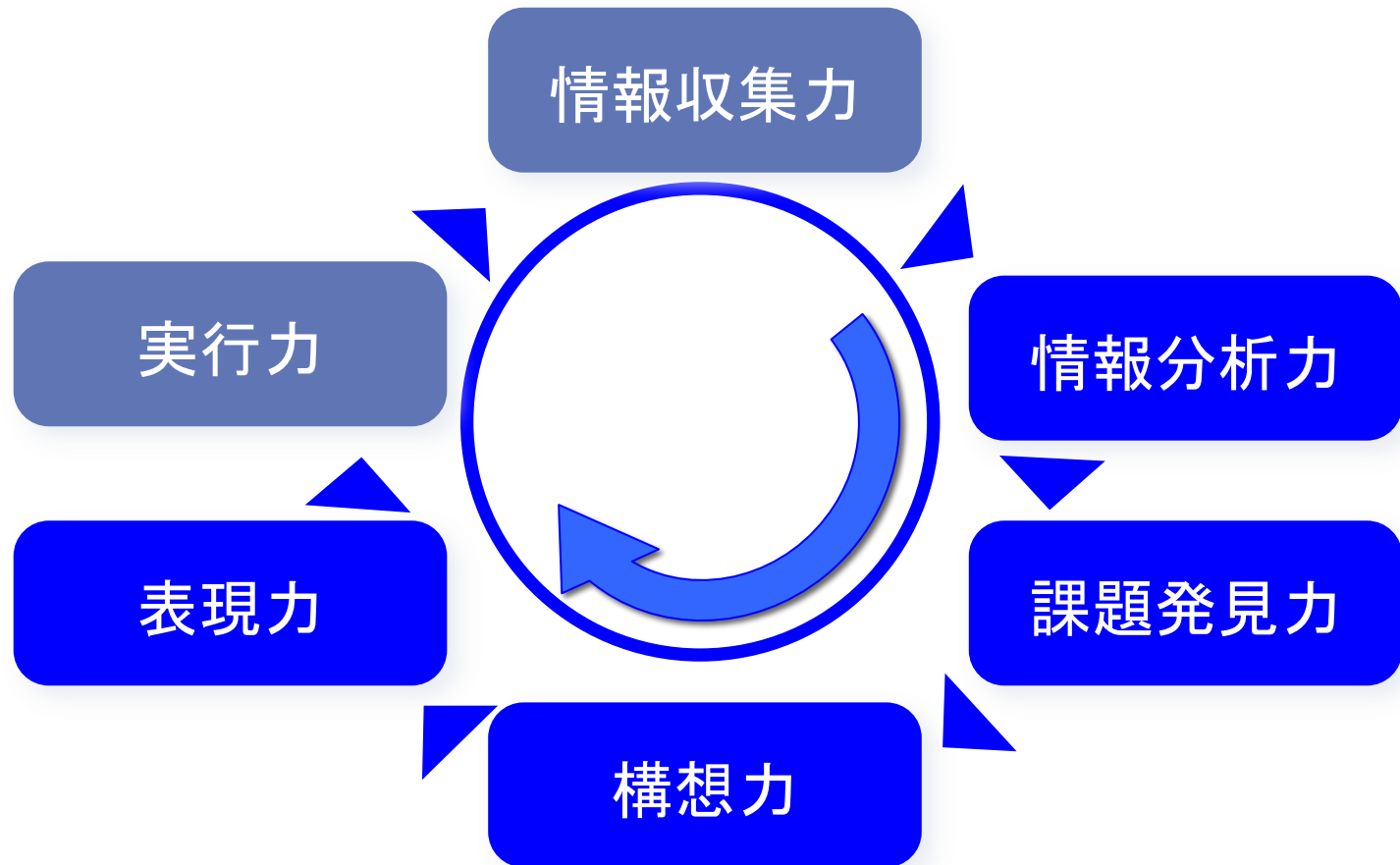
- 教育指標としてのPROGテスト…リテラシーのサイクル(プロセス)を段階的に習得させる科目をつくる。このサイクルを授業に埋め込む。

# 事例① リテラシーを育成する入門演習



- 各ゼミ5名前後のグループになって、テーマにもとづいて、調査→分析→課題発見→構想→プレゼンを実施。プレゼン大会は、1年間に2回実施。投票で順位を決定。
- 春学期は、グループごとに「大人・恋愛・結婚・就職・仕事・家族」というテーマから選択。
- 毎年、徐々にリテラシー・サイクルを意識した内容へと発展。

## 事例② リテラシーと文章表現能力



「文章を書く」とは、「知識を活用する」こと

# 公務員試験が問う日本語リテラシー

福岡県警小論文試験より

平成20年度《第1回》…【時間】60分【字数】1050字以内

「現在の福岡県内の治安情勢を踏まえ、県民が福岡県警察に期待していることは何か、警察官となった場合、県民の期待にどのように応えていくかについて、あなたの考えを具体的に述べなさい。」

【出題のポイント】…「対課題型」(cf. 大阪府警は対自己型)

- ① 治安情勢や県警の課題等の情報を知っているか(「情報収集力」)
- ② それらの情報を理解・分析できているかどうか(「情報分析力」)
- ③ そうした情報をふまえた上で、当事者意識を持った課題解決策を提案できるかどうか(「課題発見力」「構想力」)
- ④ 自分の考えを1000字程度で論理的に表現できるかどうか(「表現力」)



## 文章表現科目(教養特殊講義5・6)の授業設計

- 4名の教員(すべて文章表現の非専門家)で担当。
- ねらい…「与えられた資料を分析し、課題を発見・設定し、論理的な文章を構想でき、適切な日本語で自分の意見を主張できる、という日本語リテラシー(知識活用力／課題解決力)の習得をめざす」
- 授業方法…3コマを1ユニット化し、「情報分析→課題発見→構想→表現」のライティング・プロセスを段階を追って習得させる。
- 授業方法…グループワークを取り入れ、主体的・能動的な学習スタイルを育成し、深い知識理解や知識定着をめざす。
- 学生の文章を複数の教員がバラつきなしに評価するために、共通のルーブリックを作成して評価。

→近刊「大学生のための日本語リテラシー(仮題)」(ひつじ書房)において事例紹介予定。

## 文章表現科目…コマのユニット化とプロセス・ライティング

【授業計画例…2012年度秋学期】…4名の担当教員が1ユニットずつ教材を作成

☆第1ユニット(コーチング)～様々な資料をもとに課題に対して自分なりの解決策を提示できる。

第1回 資料分析1 コーチングに関する理論的・歴史的背景を知る。

第2回 資料分析2 コーチングに関する課題を知る。

第3回 構想&表現 コーチングに関して、自分の意見を構想し、文章を作成する。

☆第2ユニット(日本のエネルギー政策)～グラフ等のデータを読み取り自分の意見を構築できる

第1回 資料分析1 日本のエネルギー政策の現状と環境と経済成長の矛盾を理解する。

第2回 資料分析2 各国のエネルギー政策について理解する。

第3回 構想&表現 日本の今後のエネルギー政策について自分の意見をまとめる。

☆第3ユニット(新卒一括採用)～反対側の主張を意識しながら自分の意見を構築できる。

第1回 資料分析1 新卒一括採用に関するグラフ等を読み取る。

第2回 資料分析2 新卒一括採用の是非に関する資料を読み取る。

第3回 構想&表現 新卒一括採用の是非について、自分の意見をまとめ、文章を作成する。

☆第4ユニット(商店街の現代的意義)～社会的な問題について自分なりの意見を主張する。

第1回 資料分析1 商店街衰退の背景を理解する。

第2回 資料分析2 活性化に成功している商店街の事例を知る。

第3回 構想&表現 現代社会における商店街の意義について自分の意見を述べる。

## 事例③ 実習科目～コンピテンシーの育成



- 社会実習1 リスクマネジメント・コース (警察官育成プログラム) 向け科目
- ねらい…社会性(自主性、チームワーク)、規律ある行動の育成
- 消防士による救命救急講習、規律訓練
- 山口徳地青少年自然の家での宿泊研修 (チーム作り研修)

## ③-1 山口徳地青少年自然の家TAP研修

- ・ アメリカで始まったアドベンチャー教育(Project Adventure; PA)をベースに、専門の施設の中で身体を使ってチームワーク、自主性、課題解決力を育成するプログラム。
- ・ 6月に産業界GP学修評価グループ参加校で共同実施予定。

### 評価項目(例)

#### 【体験学習サイクル】

- ・ 課題解決につながる提案や行動ができる。
- ・ 体験学習の成果を大学生活で活用できる。

#### 【フルバリュー・コントラクト】(PAのキーワード)

- ・ お互いの努力を最大限に評価する。
- ・ 自分を含めたメンバーをけなしたり、軽んじたりしない。

#### 【チャレンジ・バイ・チョイス】

- ・ 自分自身で挑戦レベルとその方法を決定する。
- ・ グループの仲間にどのような方法で協力できるのかを考え、行動する。

### コンピテンシー

#### 対課題基礎力

課題発見力・計画立案力・  
実践力

#### 対人基礎力

親和力・協働力・統率力

#### 對自己基礎力

感情制御力・自信創出力・  
行動持続力

- 評価項目のルーブリックをもとに、自己評価、SAと教員による評価。

# 事例④ FD(オフキャンパス研修)

3/22~23@日本文理大由布院研修所



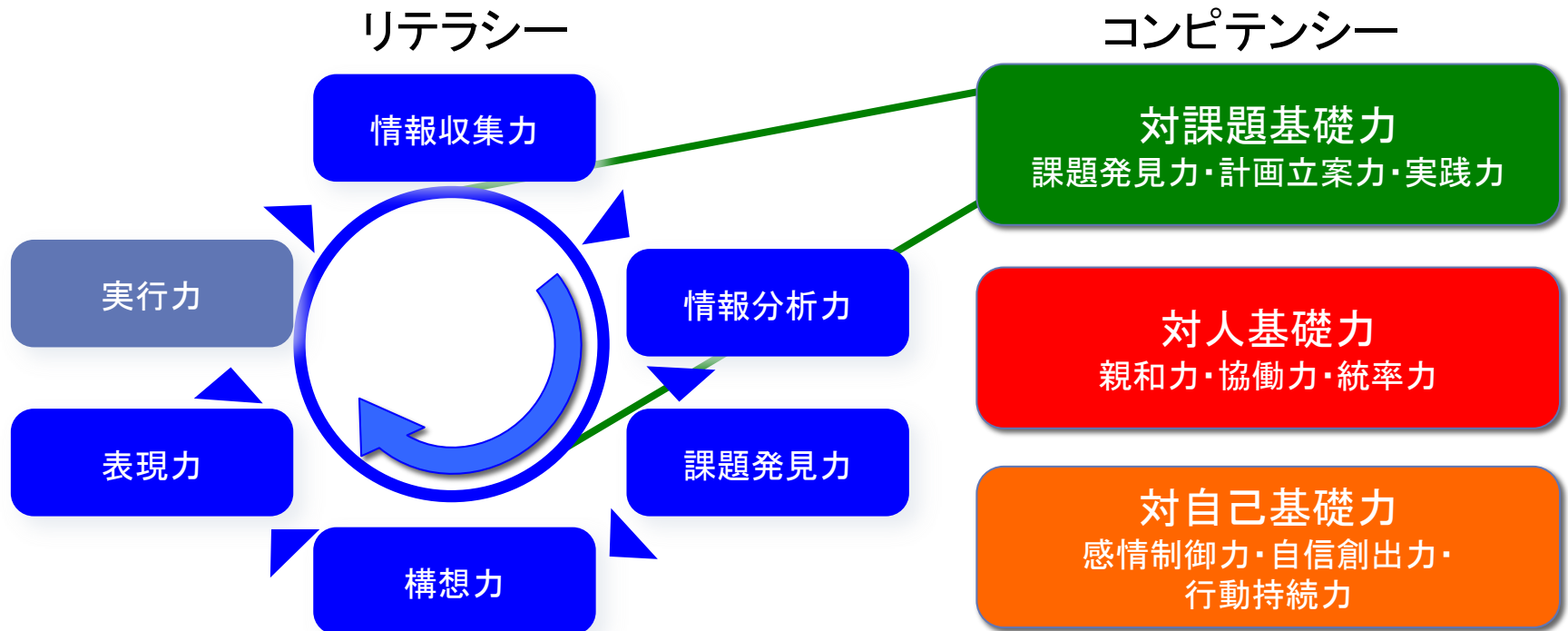
## ④-1 オフキャンパス研修プログラム

- ・入門演習担当教員とSA学生が中心となって参加
- ・テーマ:「結婚」(入門演習テーマの一つ)
- ・9月に産業界GP学修評価グループ参加校で共同実施予定

	テーマ	ねらい	方法
1stセッション (150min)	【情報分析】	与えられた資料を読解・分析し、課題を発見する。	ジグソー学習法
2ndセッション (120min)	【課題発見】・ 【構想】	解決(非婚化減少)のための方法を考える。	ブレインストーミング、KJ法
3rdセッション (120min)	【構想】・ 【情報収集】	課題を解決するための方法をまとめる。関連する情報を自分たちで探す。	プレゼン準備
4thセッション (90min)	【表現】	問題を解決するための方法を提案する。	プレゼンテーション
5thセッション (75min)	「評価①」	プレゼンの到達レベルを評価する	投票・自己評価、相互評価
6thセッション (60min)	「評価②」	ふりかえり(自己評価、相互評価)	ワールドカフェ

## ④-2 オフキャンパス研修の評価方法

プログラムのねらい…現実の複雑な課題に対して、様々な情報をふまえつつ、集団の中で協同しながら、当事者意識を持って解決策を構想する。その内容を他者に伝え、賛同・共感を得ることで、現実社会の変革を目指す。



方法：ルーブリックにもとづく採点・投票（教員評価、相互評価）…「直接評価」

方法：ふりかえりを通じた自己評価・相互評価…「間接評価」

## 事例⑤ 専門科目を通じたリテラシーの育成

専門教育を通じて育成されるスキル(“ジェネリック・スキルは専門分野から脱文脈化して習得されるわけではない”)

例えば「法律学の答案を作成するプロセスとは…」

- ① 条文、判例、学説の**収集**(従来の法学教育では「暗記する」こと)
- ② 課題(事例)に対する**事実関係の認定(分析)**
- ③ 法的**論点(法的問題点)の明確化**
- ④ 判例・学説の**批判的検討**
- ⑤ 反対の立場への反論も含めた説得力ある**論理構成**

「基礎セミナー」(2015年開講予定…2年次配当必修科目)

・4～5名の教員で担当、1クラス40名前後。

・法律問題につながる新聞記事や文献等の資料を使って、対立する2つの主張を理解し、それらの根拠を法的概念と結びつけつつ論ずる。(例:情報公開と知る権利、幸福追求権と公共の福祉等)

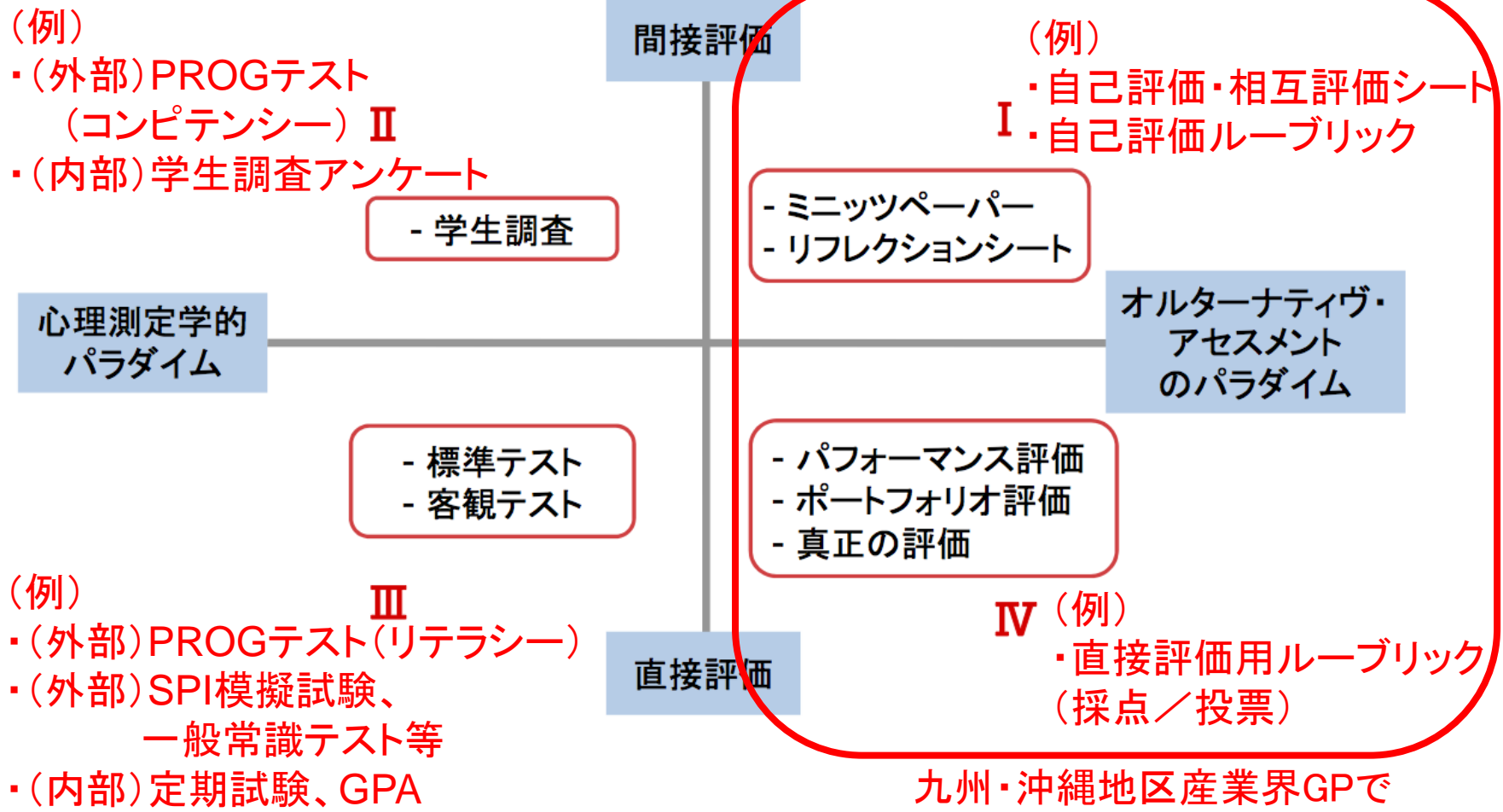


## 5. 九州・沖縄地区産業界GP の試み

---

- 九州・沖縄地区産業界GPでは、学修評価サブグループにおいて、インターンシップやキャリア教育に関する評価制度を開発する(幹事校:九国大)。
- PROGテストは大学間共通の客観テストとして機能しつつあるが、それに対して、産業界GPグループでは、パフォーマンス評価(オルタナティブ・アセスメント)の観点から、共通ルーブリック(メタ・ルーブリック)の作成を検討している。

# 学修評価の構図…PROGを含めた評価システムの構築



九州・沖縄地区産業界GPで  
メタ・ルーブリックを作成

【図表】松下 佳代「〈新しい能力〉と学習評価の枠組み」、文科省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会(第2回)」2013.1.21、より抜粋

# 九州・沖縄地区産業界GP メタ・ルーブリックのイメージ

1. 対課題基礎力							
	情報を収集する	情報を分析する	課題を発見する	目標を設定する	計画をたてる	アイデア・計画の表現	アイデア・計画の実践
4	設定された課題の意図を正しく判断し、様々な手段を用いて適切な情報な情報を収集できる。	収集した情報に対して、多角的な視点から正確に理解・分析ができる。	情報を多角的な角度から検討し、隠れた真の問題や解決すべき真の課題を発見・設定できる。	状況を踏まえて、現実的かつ明確な目標の設定ができる	目標をふまえて、実現可能性のある計画を具体的に立案できる。	状況や場面に応じて様々な手段を使い、計画や構想を説明し、相手を説得することができる。	これまでに得た知識や経験にもとづき立案した計画の実践ができています。
3...	以下略						
2. 対人基礎力							
	規律・組織への参加	他者とのコミュニケーション	他者への理解と共感	組織の中での役割理解	異なる意見の受容	建設的な議論の牽引	
4	ルールを守り、積極的に組織やチームに参加する姿勢が見られる。	多様な相手と会話などを用いてコミュニケーションが取れ、周囲への気配りもできる。	相手の立場や言いたいことを理解・共感でき、それを相手に伝えることができる。	集団の中で果たすべき役割を自分で発見し、それを理解したうえで、情報共有ができる。	異なる意見を前向きに受け入れながら、相手と議論することができる。	他者と意見が衝突した時、それを受け入れ、相手に配慮しつつ、調整案や解決策を提示できる。	
3. 対自己基礎力							
	広い視野をもつ	感情のコントロール	ストレスマネジメント	自己肯定感	自主性・積極性	良い行動の習慣化	
4	様々な価値観や背景をふまえつつ、状況に合った行動を選ぶことができる。	自分自身の感情を理解し、それを相手に直接的にぶつけることなく、効果的に伝えられる。	ストレスやモチベーションを自分自身でコントロールできる。	自分の強みや弱みを理解することで、前向きで「ぶれない自己」(自信)を持ち経験を成長につなげられる。	自分で自分のやるべきことを決め、それを積極的に実行することができる。	目標実現のためにやるべきことを粘り強く継続して行うことができる。	

➤ 今後の予定…ルーブリックの完成→カスタマイゼーション、ワークシート等の作成

# 九州・沖縄版メタ・ルーブリック活用イメージ

